

## 第6学年B組道徳科学習指導案

授業者 小室 真紀  
研究協力者 小池 孝範  
教材分析協力者 吉沢 文武

- 1 主題名 誠実であるということ 【A(2) 正直・誠実】  
教材名「手品師」(東京書籍)

### 2 子どもと主題

#### (1) 子どもについて

自分にとって道徳はどんな時間かについて考えを巡らせたとき、「道徳の時間に話し合っていると色々な考えがあって、間違いはない。でも、正解もない。だから人生悩むのだ。」とA児が話した。

「真心をもって」(教材名「心を形に」)の学習では、あいさつをする意味について議論していった。「心の中があいさつという形になって表れる。相手の気持ちを感じながら明るいあいさつを心からしていきたい。」という中で、「あいさつをする自分自身が明るい気持ちかどうか大事。」とあいさつする自分自身の心の在りようを振り返る場面が見られた。その後、なぜ、明るい爽やかなあいさつをいつ時でもできる自分になれないのだろうかという思いを自身に馳せていく子どもたちであった。こうした思いを通じて相手の気持ちを想像し尊重する気持ちを抱きながら、今の自分を真っ直ぐに見つめ直し、よりよく生きたいと思う姿が見え始めた。

#### (2) 主題について

自分自身に「誠実」である生き方は、相手に対して真心ある言動となって表れてくる。自身の良心に真っ直ぐ向き合ったとき、うそや偽りなく行動しようとする自分の真面目さに照らし、前向きに生きようとする気持ちが外にも向けられてくることを願う。とはいえ、人はいつでも「誠実」な言動をとることができるかと問われると、なかなか難しい。つい損得感情がよぎったり相手のことよりも自分の我を優先させたり、または相手の受け止め方を過度に気にしたりしたとき「誠実」さからはほど遠く、真の自分ではなくなっていくことに自責の念さえ起こってくる。それを乗り越えようと自身の心に問いかけていく過程に、相手の気持ちを慮った思いやりや正直な心が追い求めるよりよく生きようとする明るさが流れたとき、自身の納得いく誠意が「誠実」な姿となってすがすがしい生き方を形づくっていくだろう。

この資料「手品師」は、いつか大劇場に立ちたいと努力していた手品師が「さびしそうにしていた小さな男の子に明日も来て手品を見せるという約束」と「友達から舞い込んだ、夢に見た大劇場に立てるチャンス」との間で葛藤する。悩み抜いた手品師は、男の子との約束を果たし、町の片隅で男の子相手に手品を演じすがすがしい気持ちに包まれる。どちらを選択するか葛藤し、決断に至るまでの手品師の心内に共感する中で、「誠実」とはどうあるべきかについて考えを深め、自分自身を見つめ直すきっかけとなっていくだろう。

本主題では、手品師を決断させたものは何かについて仲間と議論することを通し、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで【正直・誠実】の道徳的価値の理解の幅を広げるとともに、自己の生き方を見つめ直し、よりよい生き方を目指していこうとする道徳性である「資質・能力」を高めていく。

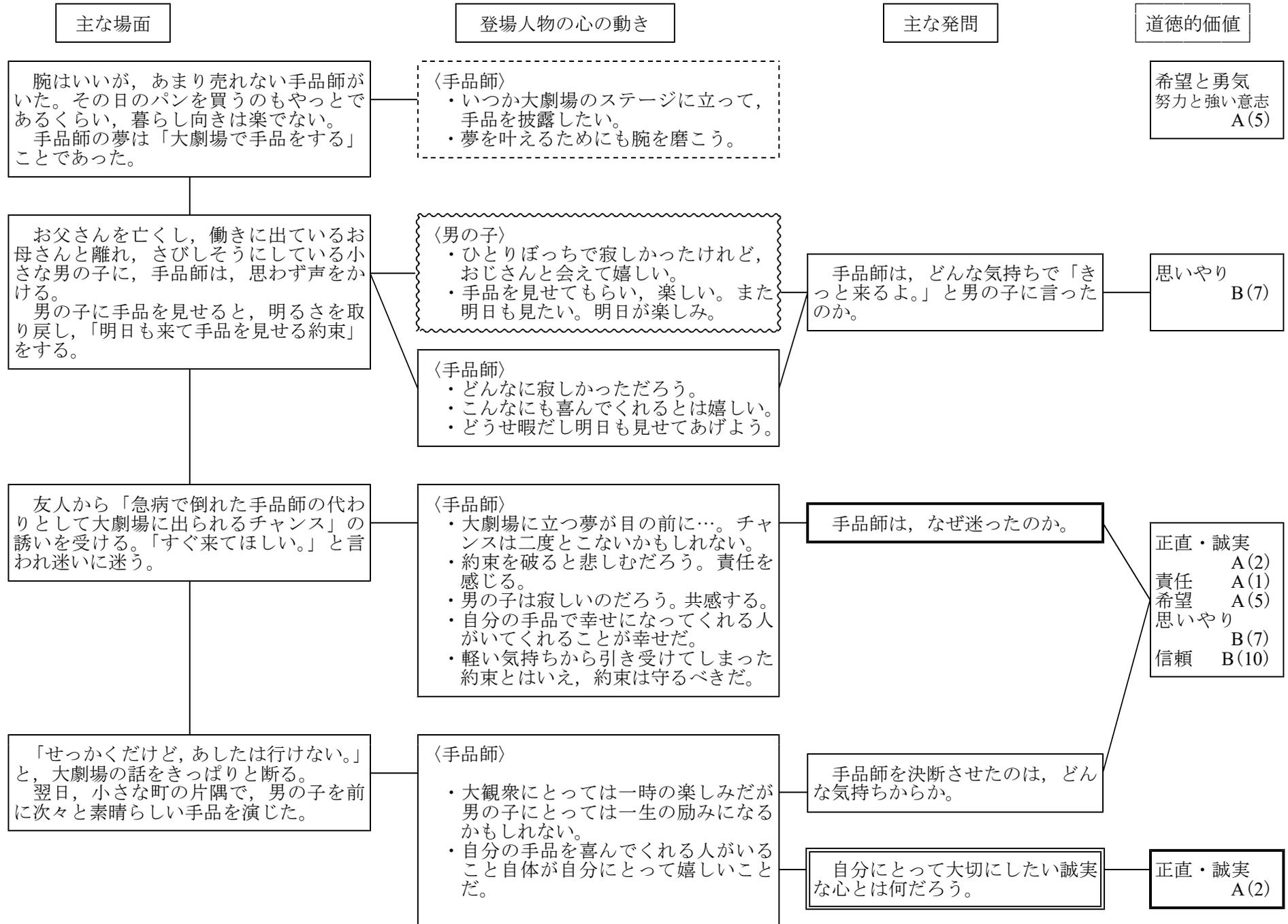
#### (3) 指導について

子どもたちは、印象的な場面として、「せっかくだけど、あしたは行けない。」と大劇場へのチャンスを作ってくれた友人に対してきっぱりと断る場面を挙げるだろう。ふつうなら夢にまで見た大劇場で演じる方を選択するだろうに、なぜ迷うのか。子どもたちから自然にわき上がった疑問をもとにした学習問題を中心に授業を構成していきたい。

「男の子との約束」と「大劇場に立つ夢」との間で迷う手品師に共感しながらも大劇場に「行くべきか」「行くべきではないのか」について問う場を設定する。手品師になりきった友達からの「心の声」を浴びながら「葛藤のトンネル」を通り、自分の考えを選択・決定することで、多様な道徳的価値が内包されていることを実感していくだろうと考える。さらに、軽い気持ちからした約束とは言え、約束は守るべき【正直】、相手の気持ちを慮る優しさ【思いやり】、「私」を優先した決断をすることで伴う責任【責任】、自身の心にうそや偽りがなく明るい心で生活をする【誠実】といった多様な道徳的価値にふれた考え方を全体で共有した上で、手品師の心の中で最も優位性の高かったものはどれだったのかについて議論する場をもち、【誠実】の意味を掘り下げていく。

本主題で育む資質・能力を高めていくために、自分の心に正直であることを基盤とした納得のいく決断が自分はどう在りたいかという生き方の根っこを醸成していくという気付きに着目することで、大切にしたい誠実な生き方は何かを自身に問い、自分が抱く【誠実】の捉えの幅を広げ、自分の生き方を見つめていく子どもの姿を期待している。

### 3 資料分析



4 本時の実際 (1 / 1)

(1) ねらい 手品師が迷った理由について話し合うことをきっかけに、誠実な自分を支えるものについて考え、自分を客観的に見つめることで、誠実な心情についての理解の幅を広げ、誇りをもって生きようとする判断力や心情を高める。

(2) 展開

○省察を通して自律的に学習を進めるための支援  
 ※選択・決定を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援	評価																		
5分	① 「手品師」を読んで、話し合いたいことを決める。	・「手品師」を読んで印象的な場面を取り上げ、その理由をもとに話し合いたい方向性を定める。																			
8分	② 手品師が迷った理由について話し合う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     軽い気持ちでした約束だったのに、手品師は、なぜ迷ったのか。                 </div>	・ふつうなら手品師の夢である大劇場に行く決断をしてもいいはずなのに、小さな男の子に手品を演じる決断をする手品師の言動を不思議に感じる子どもの考えをきっかけに、話し合いの場を広げていく。 ・大劇場へ行くことと男の子との約束を守ることのそれぞれのメリットとデメリットを二人組で分担し考え、交流し合った上で「相手の考えで自分が一番盲点だった考え」を全体で共有し合い、手品師の心の中を可能性のある限り出す場とする。																			
			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">子どもの反応</th> <th style="width: 50%;">手品師がとった言動の背景を想像すると</th> <th style="width: 25%;">道徳的な価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 大劇場に立つ夢が叶う</td> <td>・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。</td> <td>【希望】</td> </tr> <tr> <td>b 約束は守るべき</td> <td>・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。</td> <td>【正直】</td> </tr> <tr> <td>c 男の子を悲しませたくない</td> <td>・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。</td> <td>【責任】</td> </tr> <tr> <td>d 男の子を元気づけたい</td> <td>・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかも说不定い。</td> <td>【信頼】【責任】</td> </tr> <tr> <td>e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない</td> <td>・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。 ・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできれば幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。</td> <td>【思いやり】 【誠実】</td> </tr> </tbody> </table>	子どもの反応	手品師がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値	a 大劇場に立つ夢が叶う	・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。	【希望】	b 約束は守るべき	・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。	【正直】	c 男の子を悲しませたくない	・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。	【責任】	d 男の子を元気づけたい	・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかも说不定い。	【信頼】【責任】	e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない	・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。 ・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできれば幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。	【思いやり】 【誠実】
子どもの反応	手品師がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値																			
a 大劇場に立つ夢が叶う	・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。	【希望】																			
b 約束は守るべき	・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。	【正直】																			
c 男の子を悲しませたくない	・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。	【責任】																			
d 男の子を元気づけたい	・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかも说不定い。	【信頼】【責任】																			
e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない	・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。 ・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできれば幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。	【思いやり】 【誠実】																			
10分	③ 「葛藤のトンネル」を通り大劇場に「行くべきか」「行くべきでないか」自分の考えを話す。	※出た理由をもとに、大劇場に「行くべきか」「行くべきではないか」友達の「心の声」を受けながら「葛藤のトンネル」を通り、自分の考えを話す場を設定する。分類し意味付けていくことで、多様な道徳的価値が内包されていることを実感できる場とする。																			
12分	④ 手品師の心の中の優位性をランキングし、互いの道徳的価値観について話し合う。	※どの考えもあつたろうと認めつつ、手品師の心の中で最も優位性が高い考えはどれだったのかを小グループで話し合いランキングするよう促す。ランキング結果をもとに「誠実」に対する意味を共有し、自分の納得した道徳的価値観を掘り下げる場とする。																			
10分	⑤ 今日の学習を通して、感じたことや考えたことについて書く。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     自分にとって大切にしたい誠実な心とは何だろう。                 </div>	○c, dが他者に向けてのものであるのに対し, a, b, e が自己の内面に向かってのものであり, 中でもeは自己の本来の生き方を探っているという気付きに焦点を当てていく。どんなささやかなことでも自分の良心に照らして決断したことへの納得が自分の心を明るくするという誠実さへの気付きを取り上げ、自分にとって大切にしたい【誠実】な心は何か問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                         手品師が迷った理由を考えることを通し、自分の良心と向き合うことで自身が納得した判断をし、明るい心で誇りをもって生きていこうとする誠実な心情を高める。                          (発言・ノート)                     </div>																			